第２章　沖縄県の特徴（県民の健康の現状と課題）

1　人口の推移（年齢３区分別人口の推移と将来推計人口）

本県は、平成 37 年頃まで、人口増加（144 万 3 千人）が続く見込みです。

生産年齢人口は、平成 27 年頃（90 万人）をピークに減少する見込みとなっており、全人口に占める割合でみると、平成 7 年ごろから減少しています。

図３　沖縄県人口推移と予測 (年齢３区分別)

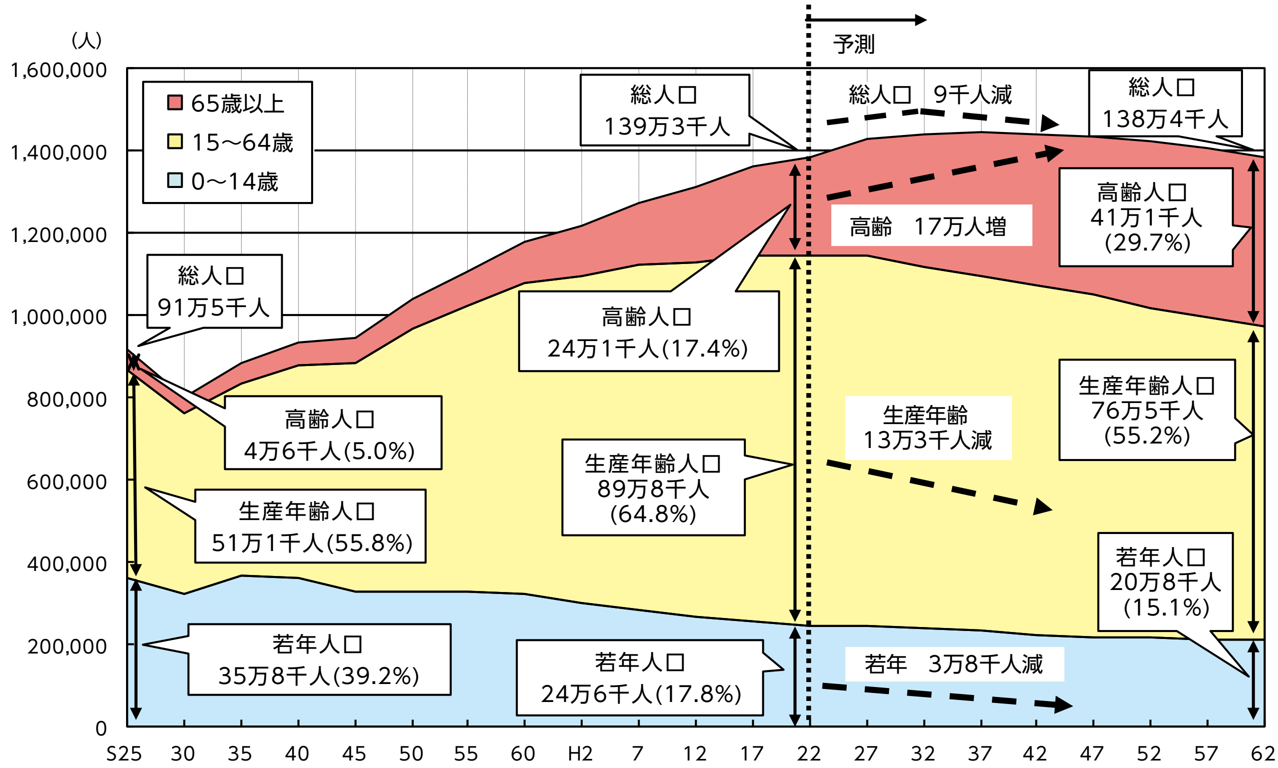


表１　「沖縄県人口推移と予測（年齢３区分別）　　単位：千人

	S25	35	45	55	H2	12	17	22	27	32	37	42	47	52	57	62
総人口	951	883	945	1,107	1,222	1,222	1,362	1,393	1,425	1,439	1,443	1,441	1,433	1,422	1,405	1,384
0 ～ 14 歳	358	368	329	325	300	264	254	246	246	240	232	223	219	216	213	208
15 ～ 64 歳	511	467	553	694	793	862	888	898	900	876	861	851	833	802	779	765
65 歳以上	46	48	62	86	121	183	219	241	279	323	350	367	382	404	413	411

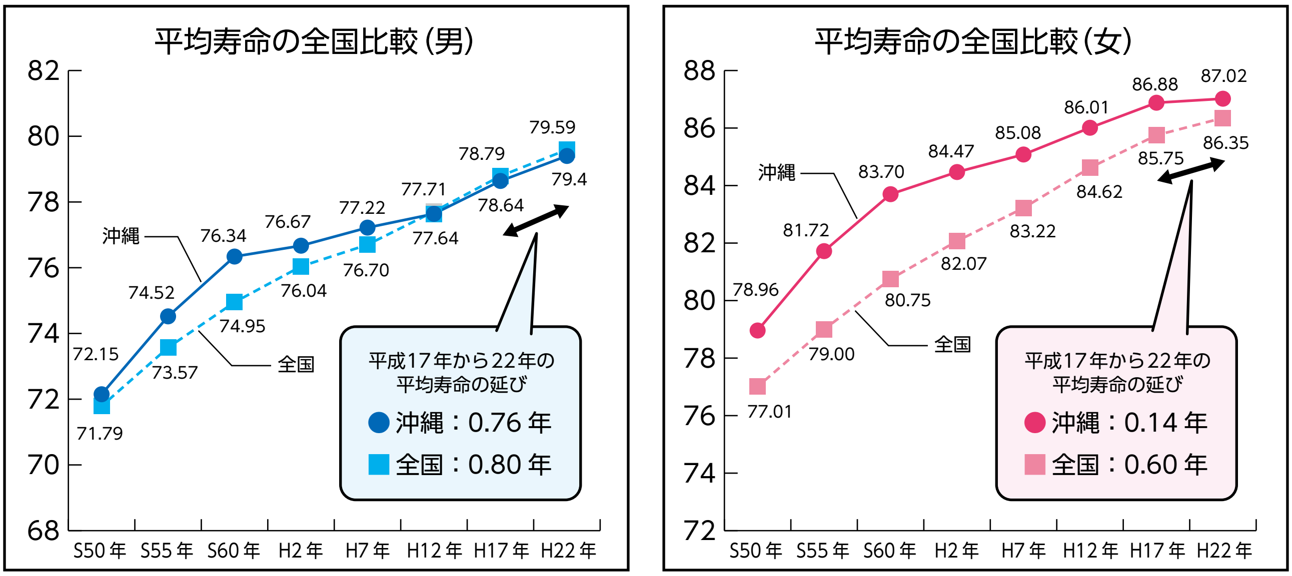
出典：「国勢調査（総務省）」「社会経済展望値関連資料（県企画調整課）」

2　健康状況

（1）平均寿命

平成 22 年都道府県別生命表によると、本県の平均寿命は、男性 79.40 年、女性 87.02 年です。平成17年と比較して、男性0.76年、女性0.14年延伸しました。一方、全国平均の伸びは男性0.80年、女性 0.60 年であり、男女とも下回っています。その結果、全国順位は男性が平成 17 年の25 位から 30 位へ、女性は 1 位から 3 位となり順位を下げました。

図 4　平均寿命の男女別全国比較



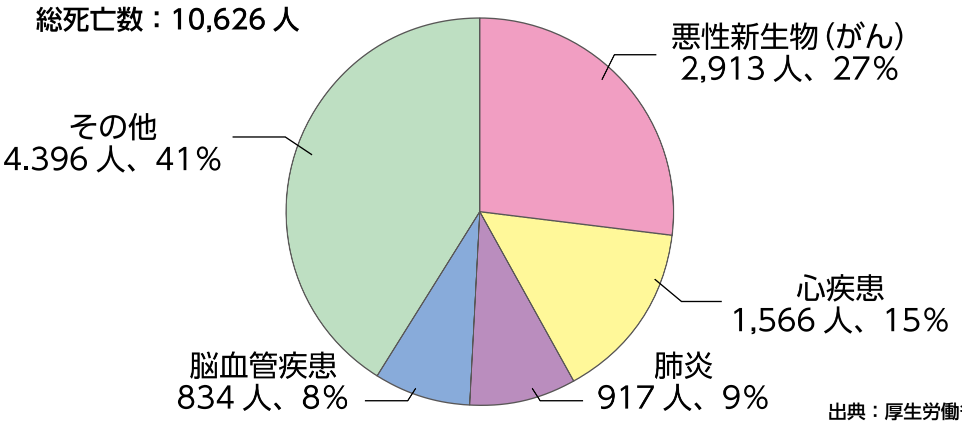
出典）厚生労働省都道府県別生命表

（2）死亡の状況

①死因別死亡

本県の総死亡数（平成 24 年）は 10,626 人で、死因別死亡順位は、第 1 位悪性新生物（がん）、第 2 位心疾患、第 3 位肺炎となっており、これらの３つの死因で全体の５０％を占めています。

図 5　平成 24 年沖縄県死因別死亡数の割合

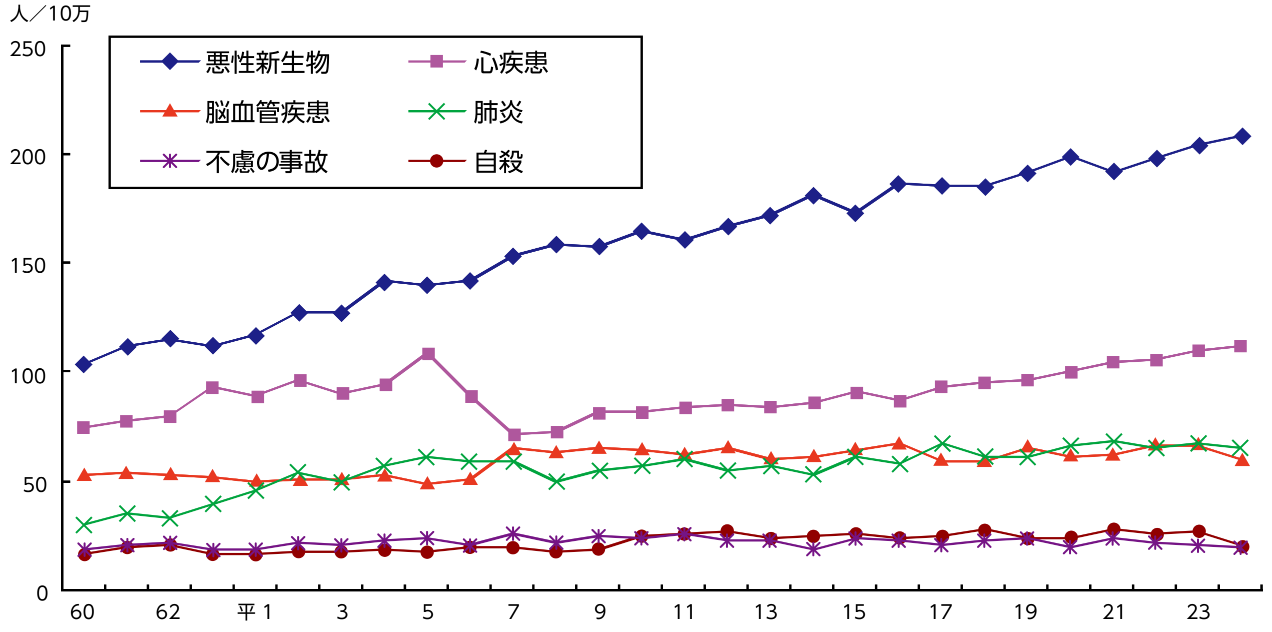


出典：厚生労働省「人口動態統計」

②主要死因別の人口 10 万人当たり死亡率の推移（沖縄県）

死因別の年次推移をみると、悪性新生物（がん）、心疾患が増加傾向です。また、脳血管疾患、肺炎は横ばいに推移しています。

図６　主要死因別の人口10万人当たり死亡率の推移(沖縄県)



出典：厚生労働省「人口動態統計」

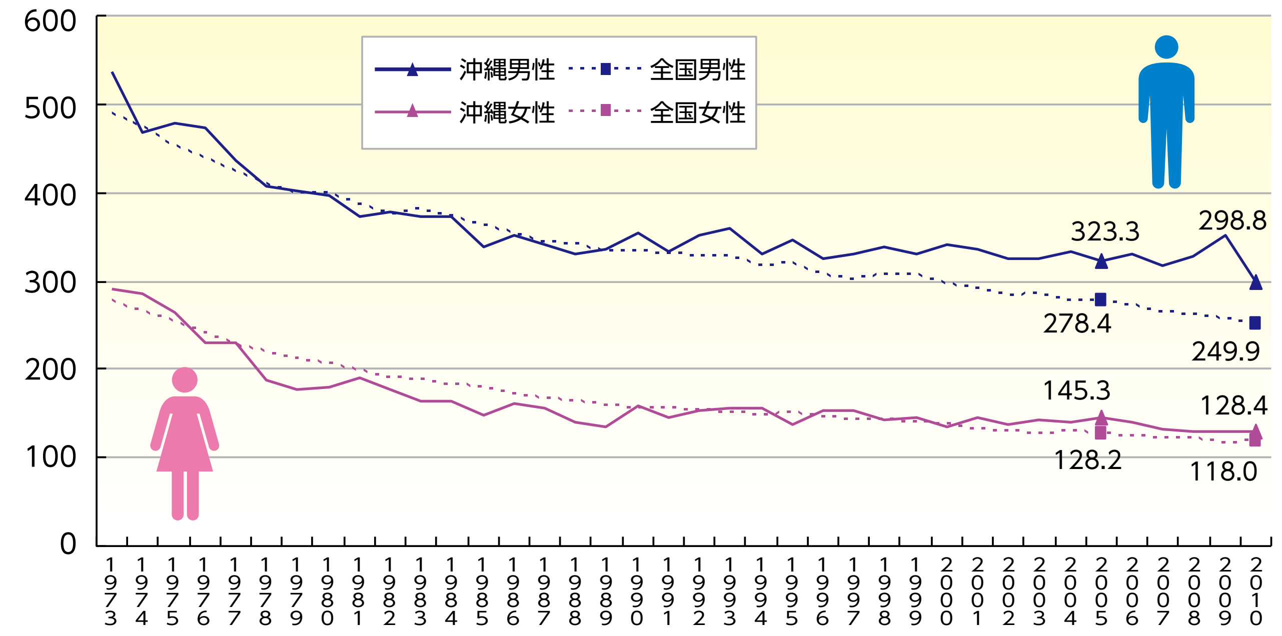
③ 20-64 歳の年齢調整死亡率

20-64 歳の年齢調整死亡率は、平成 17 年と比較し平成 22 年は男女とも有意に減少しました。しかし全国比較を行うと、男性は、平成 17 年の全国比が 1.16 倍（沖縄 323.3 人、全国 278.4 人)、平成 22 年は 1.19 倍 (沖縄 298.8 人、全国 249.9 人）と差が拡大してきています。女性は、平成 17 年の全国比が 1.13 倍（沖縄 145.3 人、全国 128.2 人)、 平成 22 年は 1.08 倍 (沖縄 128.4 人、全国 118.0 人）と差が縮小してきています。(図７)

平均寿命の伸びが全国平均より低くなった要因として、本県の 20-64 歳のいわゆる働き盛り世代において、全国の死亡率より高いことが挙げられます。主要死因の年齢階級別死亡率で全国ワースト５位内に入っているものは、急性心筋梗塞、脳血管疾患といった生活習慣病の合併症や、アルコールを原因とする肝疾患、自殺などの死亡率が高い状況となってます。

（表２・表３）

図７　20～64歳の年齢調整死亡率の推移



出典：厚生労働省「人口動態統計」

表２　沖縄県における主要死因の年齢階級別死亡率の都道府県順位（抜粋）

全国ワースト５位内の疾患・年齢			
男性	肝疾患	40～44歳 55～59歳	1位
		45～49歳 50～54歳	2位
	悪性新生物	45～49歳	1位
	自　殺	50～54歳	1位
		65～74歳	3位
		30～34歳	4位
	脳血管疾患	40～44歳 55～59歳	2位
		50～54歳	3位
		35～39歳 45～49歳	5位
	急性心筋梗塞	40～44歳 50～59歳	4位

全国ワースト５位内の疾患・年齢			
女性	肝疾患	45～49歳 55～59歳	1位
	自殺	50～54歳 30～34歳	1位 3位
	心疾患	35～39歳	1位
	腎不全	40～44歳	2位
	急性心筋梗塞	35～39歳	3位
		30～34歳	5位
	脳血管疾患	40～49歳	5位

平成22年人口動態統計特殊報告より

※年齢階級別死亡率とは、年齢階級別に算出した死亡率（人口10万対）

表３　沖縄県における主要死因の年齢調整死亡率および年齢階級別死亡率の都道府県順位

－平成 22 年人口動態統計特殊報告より－

性別	死因	年齢調整死亡率	年齢階級別死亡率 総数	0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-
男	全死因	27	1	41	4	24	46	10	23	37	43	45	46	45	46	31	34	18	3	1	1
	悪性新生物	2	1	30	1	30	25	14	8	1	23	10	47	10	34	2	7	1	1	1	18
	気管支・肺がん	5	1	-	-	-	1	1	1	1	21	14	30	1	6	12	4	2	34	28	46
	心疾患	20	2	22	1	38	1	24	27	44	38	17	32	36	42	38	25	35	11	5	2
	急性心筋梗塞	38	18	-	-	1	1	45	1	37	25	44	35	44	44	13	35	46	30	20	24
	脳血管疾患	24	1	1	1	1	43	1	1	16	43	46	43	45	46	41	9	32	2	1	1
	脳内出血	42	18	1	1	1	45	1	1	1	38	47	36	47	42	43	30	43	23	30	36
	肺炎	4	1	47	1	1	1	1	1	32	1	1	14	43	42	22	4	24	2	1	7
	肝疾患	47	44	43	1	1	-	1	1	35	43	47	46	46	47	35	43	27	44	7	3
	糖尿病	37	10	-	-	1	1	1	1	1	1	23	41	22	25	29	39	35	39	22	16
	腎不全	5	1	1	-	1	-	1	1	1	1	1	1	22	5	37	47	36	1	4	1
	不慮の事故	9	2	18	19	19	47	5	24	25	18	19	12	20	40	1	14	23	8	1	3
	自殺	40	34	-	-	37	25	18	30	44	42	30	23	47	33	17	45	45	2	28	7
女	全死因	14	1	34	47	36	19	28	37	32	40	37	44	27	32	30	46	6	4	2	1
	悪性新生物	7	1	1	41	1	32	21	35	8	25	17	25	10	23	17	39	10	9	1	15
	気管支・肺がん	32	3	1	-	1	1	1	1	1	37	25	15	46	1	12	32	19	40	19	46
	心疾患	6	1	39	43	1	41	1	41	39	47	34	27	24	22	42	26	3	6	3	1
	急性心筋梗塞	30	12	-	-	-	-	1	1	43	45	38	42	27	14	25	46	23	34	20	28
	脳血管疾患	5	1	1	1	1	1	1	1	37	18	43	43	18	19	5	37	7	13	1	1
	脳内出血	22	3	1	1	1	1	1	1	44	1	33	42	35	4	29	39	25	17	18	8
	肺炎	9	2	30	44	45	1	47	1	1	1	37	34	1	41	6	2	21	20	3	11
	肝疾患	46	40	1	1	1	1	1	1	1	38	1	47	36	47	39	45	36	43	33	45
	糖尿病	41	11	-	-	-	1	1	1	1	1	1	39	1	19	46	46	46	20	28	9
	腎不全	13	6	1	-	-	1	1	1	1	1	46	40	40	1	20	21	7	4	9	33
	不慮の事故	2	1	17	45	1	16	15	17	16	11	7	37	23	25	3	28	4	1	2	1
	自殺	46	24	-	-	47	26	28	42	45	24	40	44	47	41	8	2	1	4	26	31

注：順位は低率順である。
（水色）は、都道府県順位がベスト５。
（桃色）は、都道府県順位がワースト５。

厚生労働省平成 25 年 10 月 31 日付け「平成 22 年都道府県別年齢調整死亡率の概況」について一部訂正があり、本県女性の自殺の死因について順位の訂正があります（平成 26 年３月）

3　特定健診・がん検診状況

（1）特定健康診査

本県の平成 22 年度保険者別特定健康診査受診率（特定健診）は、全体で 41.9％となり、全国の 42.6％を下回っており、本県の医療費適正化計画で定めた受診率 70％の目標値には達していません。

保険者ごとに見ると、市町村国保が 34.4% と最も低くなっています。

表 4　平成 22 年度保険者別特定健診受診率　（単位：人）

	全　国	沖縄県			
		計	市町村 国保（＊）	全国健康 保険協会	共済・組合 健保等
対象者数	52,192,070	512,894	261,459	155,019	96,416
受診者数	22,232,094	214,785	89,999	71,002	53,784
受診率	42.6%	41.9%	34,4%	45.8%	55.8%

出典：都道府県における医療費適正化計画策定に係る参考データ
（厚生労働省）※保険者毎の推計のため、確定値と相違がある
市町村国保（＊）は、法定報告確定値を使用

(2) 特定保健指導

本県の平成 22 年度保険者別特定保健指導実施率は、全体で 18.5％で、全国の 13.3％を上回っています。しかし、本県の医療費適正化計画で定めた保健指導実施率 45% の目標値には達していません。

保険者ごとに見ると、市町村国保で 42.1％と高い反面、全国健康保険協会（協会けんぽ）や共済・組合健保等で低くなっています。

表 5　平成 22 年度保険者別特定保健指導実施率　（単位：人）

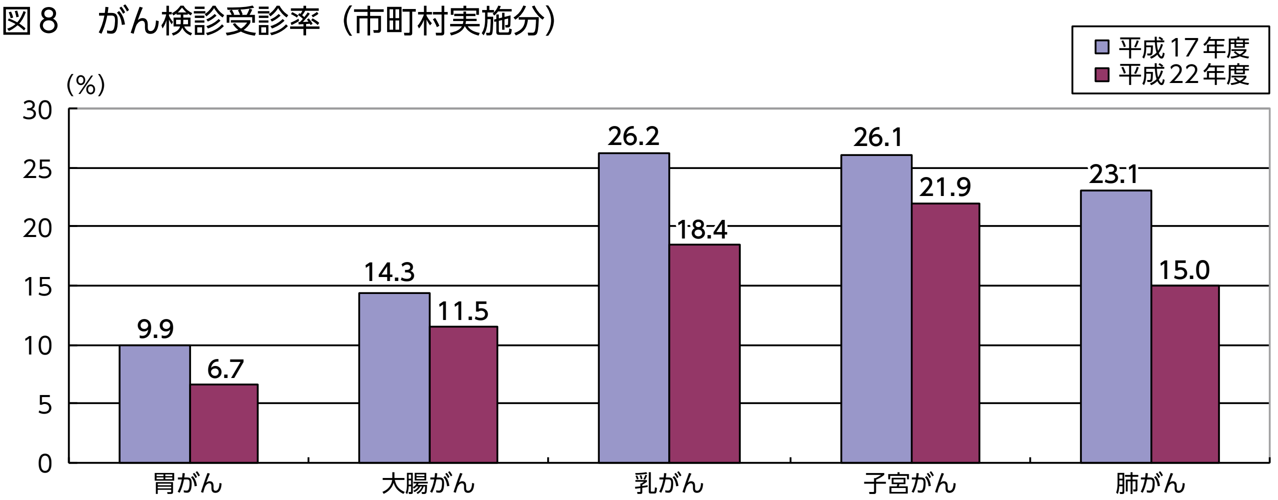
	全　国	沖縄県			
		計	市町村 国保（＊）	全国健康 保険協会	共済・組合 健保等
対象者数	4,053,665	53,105	17,173	17,742	18,190
受診者数	537,146	9,836	7,227	1,407	1,202
実施率	13.3%	18.5%	42.1%	7.9%	6.6%

出典：都道府県における医療費適正化計画策定に係る参考データ
（厚生労働省）※保険者毎の推計のため、確定値と相違がある
市町村国保（＊）は、法定報告確定値を使用

（3）がん検診

平成 22 年度地域保健・健康増進事業報告によると、市町村の実施するがん検診の受診率は、全てのがん検診で平成 17 年度と比較し減少しています。

図８　がん検診受診率（市町村実施分）

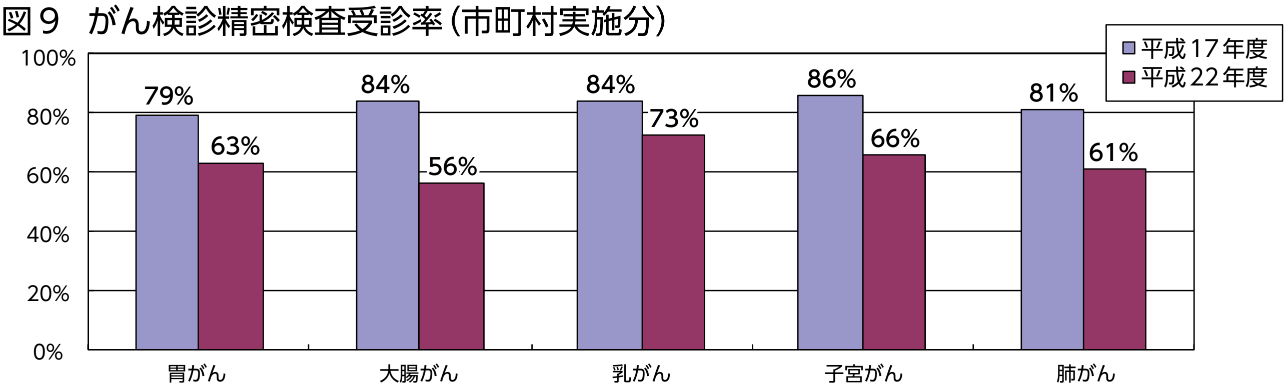


出典：地域保健・健康増進事業報告

（4）がん検診精密検査

平成 22 年度地域保健・健康増進事業報告によると、市町村の実施するがん検診を受診後、精密検査が必要と判断された人が、その後精密検査を受けた割合は、全ての精密検査で減少しています。

図９　がん検診精密検査受診率（市町村実施分）

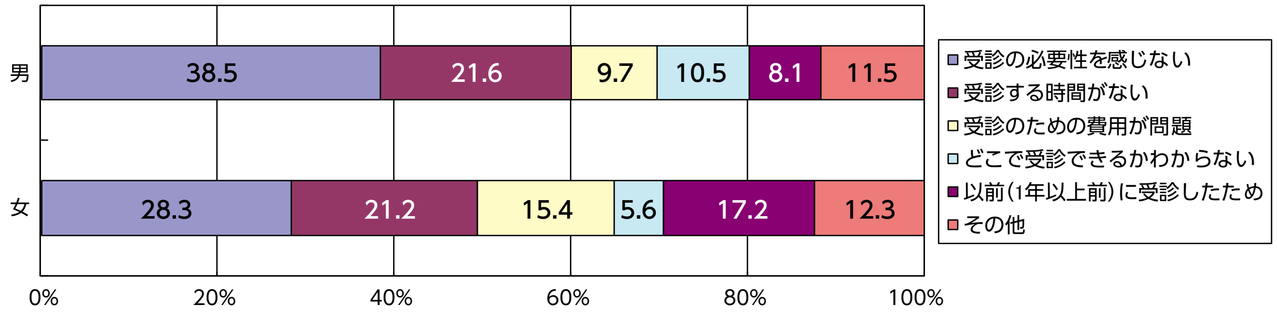


出典：地域保健・健康増進事業報告

参考）がん検診を受けない理由

がん検診を受けない理由として、必要性を感じないと答えた人の割合が男性は約４割、女性は約３割となっています。

図 10　がん検診を受けない理由



出典：平成 23 年度県民健康・栄養調査

４　「健康おきなわ２１」中間評価（平成 24 年度実施）

平成 24 年度に「健康おきなわ２１」（平成 20〜29 年）の中間評価を実施し、取組や目標値の達成状況について評価を行いました。評価にあたっては、平成 23 年度に実施した県民健康・栄養調査※を主たる資料として使用しました。

表６「健康おきなわ２１」中間評価における目標達成状況（一部抜粋）

前期目標値をベースライン値（現状値）として、直近値と比較

判定区分	指標数（%）	主な項目
目標達成した	32項目 (23.5%)	・運動習慣のあるものの割合（成人男性） ・フッ化物洗口を実施する施設数（保育所・幼稚園・小学校） ・多量飲酒者（1日６０ｇ以上）の減少　（成人男性・成人女性） ・脳梗塞年齢調整死亡率の減少（成人男性） ・虚血性心疾患年齢調整死亡率の減少（成人女性） ・県民一人あたりの年間タバコ消費本数 ・がんの年齢調整死亡率（７５歳未満）の減少（成人男性） ・食塩摂取量（成人男性・成人女性）
改善した （改善傾向にある）	23項目 (16.9%)	・喫煙率の減少（成人男性） ・3歳児むし歯有病者率 ・12歳児の一人平均むし歯経験歯数 ・がん検診受診率（胃がん、大腸がん、肺がん）
変わらない	29項目 (21.3%)	・自殺死亡率の減少（成人男性・成人女性） ・糖尿病有病者推定数の減少　４０～７０歳（成人男性・成人女性） ・女性の喫煙率
悪化した （悪化傾向にある）	34項目 (25.0%)	・高脂血症者数の減少（40～74歳）　（成人男性） ・１日あたりの緑黄色野菜の平均摂取量（成人男性・成人女性） ・１日あたりの歩数（成人女性） ・「節度ある適度な飲酒量」を知っている人　（成人女性） ・メタボリックシンドローム該当者推定数（成人男性） ・がん検診精検受診率
判定不能	18項目 (13.2%)	・特定健診受診率・特定保健指導実施率 (※厚生労働省医療費適正化対策室から、平成20年度から3カ年のデータに限定されることや男女別の数値が示されていないため) ・糖尿病による失明発症率 (※厚生労働省から算定式が示されていないため)
合　計	136項目 100%	

<判定区分の判定基準>

・**改善した（改善傾向にある）**は、５%有意水準で統計的な有意差が認められたこと及び、統計的な有意差は認められないが一定の水準を超えた差を認めたことにより判定。

・**悪化した（悪化傾向にある）**は、５%有意水準で統計的な有意差が認められたこと及び、統計的な有意差は認められないが一定の水準を超えた差を認めたことにより判定。

※平成 23 年度県民健康・栄養調査とは

県民の身体状況、栄養摂取量及び生活習慣の状況を把握し、県民の総合的な健康増進対策を推進するための基礎資料を得るため沖縄県が行うものです。

平成 22 年及び平成 23 年国民生活基礎調査より設定された地区より無作為に抽出した 50 単位区の世帯及び世帯員 1,017 世帯、2,163 人が対象。（栄養摂取状況調査のみ 30 単位区 1,398 人）

そのうち協力が得られた栄養摂取状況調査 1,110 人、身体状況調査 1,351 人、口腔内状況調査 750 人、生活習慣調査 1,588 人に実施。

5　ライフステージにおける健康課題
（第５章　健康づくりを推進するための４つの基本方針より抜粋）

	項目	次世代の健康		働き盛り世代の健康	高齢者の健康
		乳幼児期（妊娠期） ０～６歳	学童期・思春期 ７～１９歳	青壮年期 ２０～64 歳	高齢期 65 歳以上
生活習慣	食生活・運動		・肥満傾向児が全国より高い （小学５年生） （全国男子 4.6%、沖縄 5.98%） （全国女子 3.39%、沖縄 4.44%） ※ H23 年学校保健統計調査	・肥満者の割合が全国より高い （男性：全国 31.7%・沖縄 46.3%　女性：全国 23%・沖縄 37.5%） ※全国 :H22 年国民健康・栄養調査、沖縄 :H23 年県民健康・栄養調査 ・野菜摂取量が少ない（男性全国ワースト３位・女性ワースト４位） （男性：全国 301・沖縄 266　女性：全国 285・沖縄 249 g / 日） ※ H18 ～ 22 年国民健康・栄養調査	
	休養・こころ アルコール	・妊娠中の飲酒率 （全国 8.7%・沖縄データなし）	・未成年者の飲酒率 （沖縄男子３.6%・女子 2.0%） ※ H23 年県民健康・栄養調査	・生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている者が多い （男性：全国 15.3%・沖縄 23.3%、女性：全国 7.5%・沖縄 27.2%） ※全国 :H22 年国民健康・栄養調査、沖縄 :H23 年県民健康・栄養調査 ・節度ある適度な飲酒量を知っている人が少ない （H23 年男性 31%、女性 22.9%）　※ H23 年県民健康・栄養調査	
	タバコ	・妊娠中の喫煙率 （全国 5.0%沖縄 4.6%） ※全国は H22 年乳幼児身体発育調査 沖縄は H23 年度乳幼児健診報告 ・低出生体重児がワースト２位 （全国 9.6% 沖縄 10.6%） ※ H23 年度沖縄県の母子保健	・未成年者の喫煙率 （沖縄男子 1.8%・女子 2.0%） ※ H23 年県民健康・栄養調査	・喫煙率は男女とも全国とほぼ同じ （男性：全国 32.2・沖縄 30. 6、女性：全国 8.4・沖縄 7.8） ※全国 :H22 年国民健康・栄養調査、沖縄 :H23 年県民健康・栄養調査	
	歯・口腔の健康	・３歳児のむし歯が多い 有病者率ワースト２位 （全国 20.4%・沖縄 34.1%） ※ H23 年度厚生労働省母子保健課	・12 歳児一人平均むし歯数 ワースト１位 （全国 1.2 本・沖縄 2.5 本） ※ H24 年度学校保健統計調査	・60 歳で 24 歯以上自分の歯をもつ者の割合（6024）は全国の半分 （H23 年全国 65.8%・沖縄 33.1%） ・80 歳で 20 歯以上の自分の歯をもつ者の割合（8020）は全国の半分 （H23 年全国 40.2%・沖縄 19.1%） ※全国は歯科疾患実態調査沖縄は県民健康・栄養調査	
生活習慣病	①がん ②循環器 ③糖尿病 ④肝疾患 ⑤ COPD			・がん検診受診率が低い 胃がん 6.7%、大腸がん 11.5%、乳がん 18.4%、子宮がん 21.9% 肺がん 15.0%　※ H22 年度地域保健・健康増進事業報告 ・メタボリックシンドローム該当者・予備群が高い（全国ワースト１位） 該当者：H22 年全国 14%、沖縄 18% 予備群：H22 年全国 12%、沖縄 16% ・糖尿病腎症による新規透析導入者が多い（全国ワースト３位） H22 年全国 12.7　沖縄 16.7 ・アルコール性肝疾患死亡率が全国の２倍高い （H23 年男性：全国 6.6 人・沖縄 12.6 人）　人口 10 万対 ・COPD による死亡が男女とも全国ワースト１位 男性：全国 9.1%、沖縄 12.8%　女性：全国 1,4%、沖縄 3,9% ※平成 22 年人口動態統計	

6　ライフステージにおける今後の取組み
（第５章　健康づくりを推進するための４つの基本方針より抜粋）

	項目	次世代の健康 乳幼児期（妊娠期） 0～6歳	次世代の健康 学童期・思春期 7～19歳	働き盛り世代の健康 青壮年期 20～64歳	高齢者の健康 高齢期 65歳以上
生活習慣	食生活・運動	・乳幼児期からの望ましい食育や生活習慣について普及啓発を行う	・学校等教育機関と連携し、子どもの望ましい食育や生活習慣について普及啓発を行う	・食生活や運動の必要性に関する普及啓発を行う ・健康的な食生活を実践しやすい環鏡整備を推進する ・運動しやすい環境づくりを推進する	・高齢期に健康に過ごせるよう健康づくりに関する情報発信する ・高齢期に応じた栄養・運動指導について事業を支援する
生活習慣	休養・こころ アルコール	・妊婦の飲酒防止に向け、普及啓発を行う	・学校等教育機関と連携し、子どもの望ましい生活習慣について普及啓発を行う（ストレス対処法やこころの健康等） ・学校等教育機関と連携し、飲酒に関する正しい知識の普及を行う	・こころの健康に関する講演会を開催する ・効果的なストレス対処法等の普及啓発を行う ・アルコールによる健康被害、適正飲酒の普及啓発を行う ・職場健診等で AUDIT の活用、減酒支援を推進する （※ AUDIT については 55 頁コラム参照）	
生活習慣	タバコ	・妊婦の喫煙、受動喫煙防止に向け、普及啓発を行う	・学校等教育機関へ教材等、普及啓発ツールを提供する ・学校等教育機関と連携し、未成年者の禁煙支援を行う	・喫煙、受動喫煙の健康影響について普及啓発を行う ・禁煙支援のための研修会等を開催する	
生活習慣	歯・口腔の健康	・母子保健事業等にて、適切な歯みがき習慣、規則正しい食生活の定着、フッ化物応用を推進する	・学校での歯科保健教育の充実強化 ・フッ化物を効果的に活用する等、むし歯予防対策の充実に努める	・定期的な歯科検診の受診促進・口腔ケアの普及促進（歯みがき・フッ素・フロス） ・歯周病予防の普及啓発を行う	・高齢者の口腔機能の維持・向上を図るため、介護施設関係者等への研修会を開催する
生活習慣病	①がん ②循環器 ③糖尿病 ④肝疾患 ⑤ COPD		・学校等教育機関と連携し、生活習慣病予防について普及啓発を行う	①がん予防や検診に関する正しい知識の普及啓発を行う 特定健診・がん検診を受けやすい環境整備を行う ②循環器疾患を予防する生活習慣について正しい知識の普及啓発を行う 循環器疾患の発症予防や重症化予防に取組みやすい環境整備を行う ③糖尿病を予防する生活習慣について正しい知識の普及啓発を行う 糖尿病の発症予防や重症化予防に取組みやすい環境整備を行う ④アルコールによる健康被害、適正飲酒の普及啓発を行う 職場健診等で AUDIT の活用、簡易介入を推進する ⑤ COPD（慢性閉塞性肺疾患）の名称と疾患に関する知識の普及を行う	